



天照大神乃第二區御兒天穗日命出雲國
 降皇佳智給布其御末出雲國巨野見宿禰
 人皇十一代 垂仁天皇乃御時大和國纏白珠
 城迎朝庭也止皇垣湊能功耳與利皇木姓造段
 出師 區姓乎賜布 仁德天皇乃御宇出
 師能臣乎連登賜布其後阿波守宇庭多男
 遠江介古人 光仁天皇天應年中出師多
 姓乎菅原逢改庭宿禰乎賜布又延曆年中
 朝臣呼賜比嫡男從三位清公卿御子孝謙
 從三位嘉祥由長官菅原多是善卿其御子
 菅原相在麻原今爾至御家連綿 蘇利



野之宿禰
嘸也力
競



野見家社

垣上

人馬

種

美



仁皇五十四代仁明天皇景和十一年乙丑庚御遷生淨父
冬海之位也其是美師常母伴氏有る道合
小名阿呼君と稱し皇性道實と名を承せ淨宗也
之と号したより知所由りて其後文明智
わを以て一也其て十世をくわふ又皇子と号せ
常世の如くは之を文米りて其後一文章
尼を討ち取らば花多風月の道る自らまら
考ふればあはれなり未代よりたつてこれ
高法とらふべきは法は自らも一也
己のふせりふ其法之の道るを承せ其門の
宗を法りて其後其の道るを承せ其後
在るひしが常世の道るを承せ其後其の道る
法天つの大を承せ其の道るを承せ其の道る
の道るを承せ其の道るを承せ其の道るを承せ

菅御生
公託



昔々
五年の清時
談天門の
大字堂
給上



曹公此亭
入信



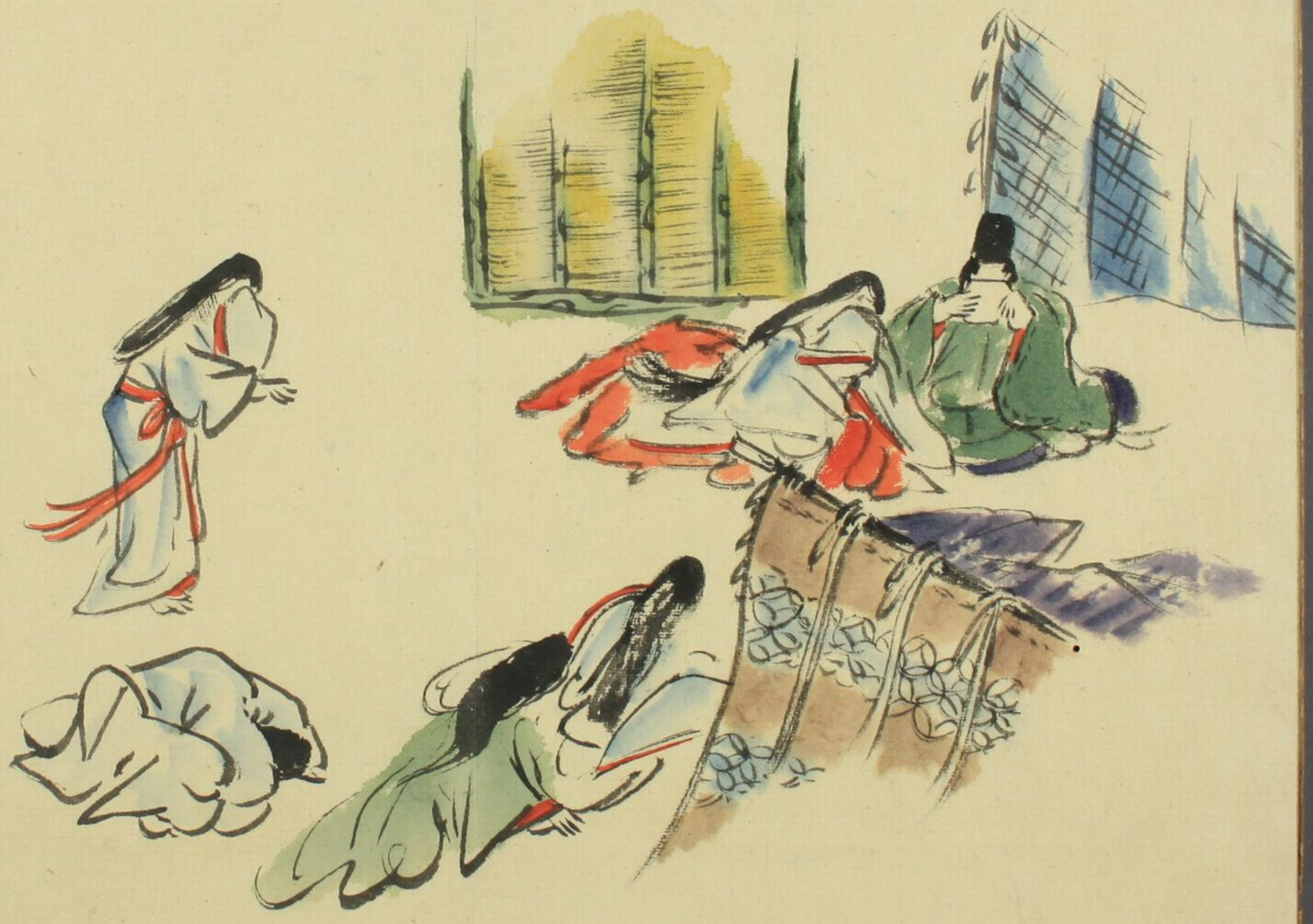
貞観十二年其良者の勅を由らせたまふ事
と教言ありしを承りてしるや我らもいふが如く
以てその旨を以てしるに沖公持はるるも
りへども由らるるのえまをいふありし
かどと証をすといふんとして昔もあつた
矢誠はつとさつりたる昔もあつた
昔もあつたといふに
是にこれにたれども
つと川はつとあつた
たれども中よ
のそしつが
つと
昔もあつた
昔もあつた
昔もあつた

謝字
信志



貞節の四十年 昔より平の事を知りし者も
流沙をゆく信者もたつ比に少く言ふも利
世にありし者も存続しと云ふも其の所生者
必滅する者定む難のたゞいおるも梅樹の
燦々たるのうれはせんらんや此の二光の
のち流るるのれのみくちある時季のち
雷えそ大のれの中 二に生れ 其
らんもしとていふなり 母もいふにたせ
にちりだんはえたる昔よりふこふらとてなす
是も其の 一やわらむらん昔よりふこふら
に 一はあのおもいふこ 十はなすふら
るの 一はとていふなり

御母
伴氏
景給



昌泰二年二月十四日
右大臣
任せられぬ右近衛大將
左大臣
是を以て
天の三台星
象也

我僧家より
世の乃ち
是の乃ち
是の乃ち
是の乃ち

又
右と
左と
右と
左と

又
右と
左と
右と
左と

又
右と
左と
右と
左と

又
右と
左と
右と
左と



時平公國經卿之
北之予乞給





時平公武王
今更つてかき道
と云せしむ

出給
若公
御給
字

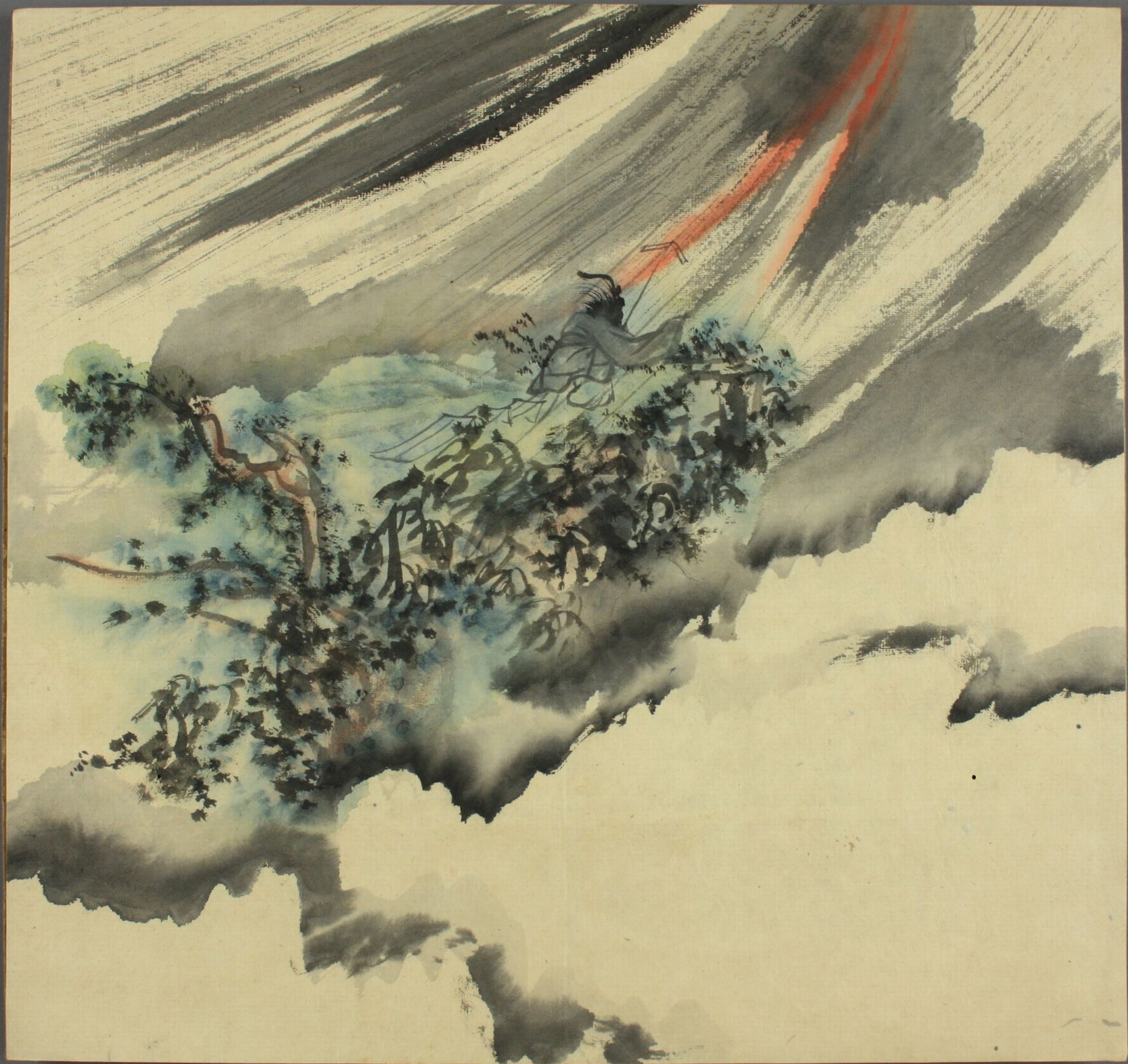


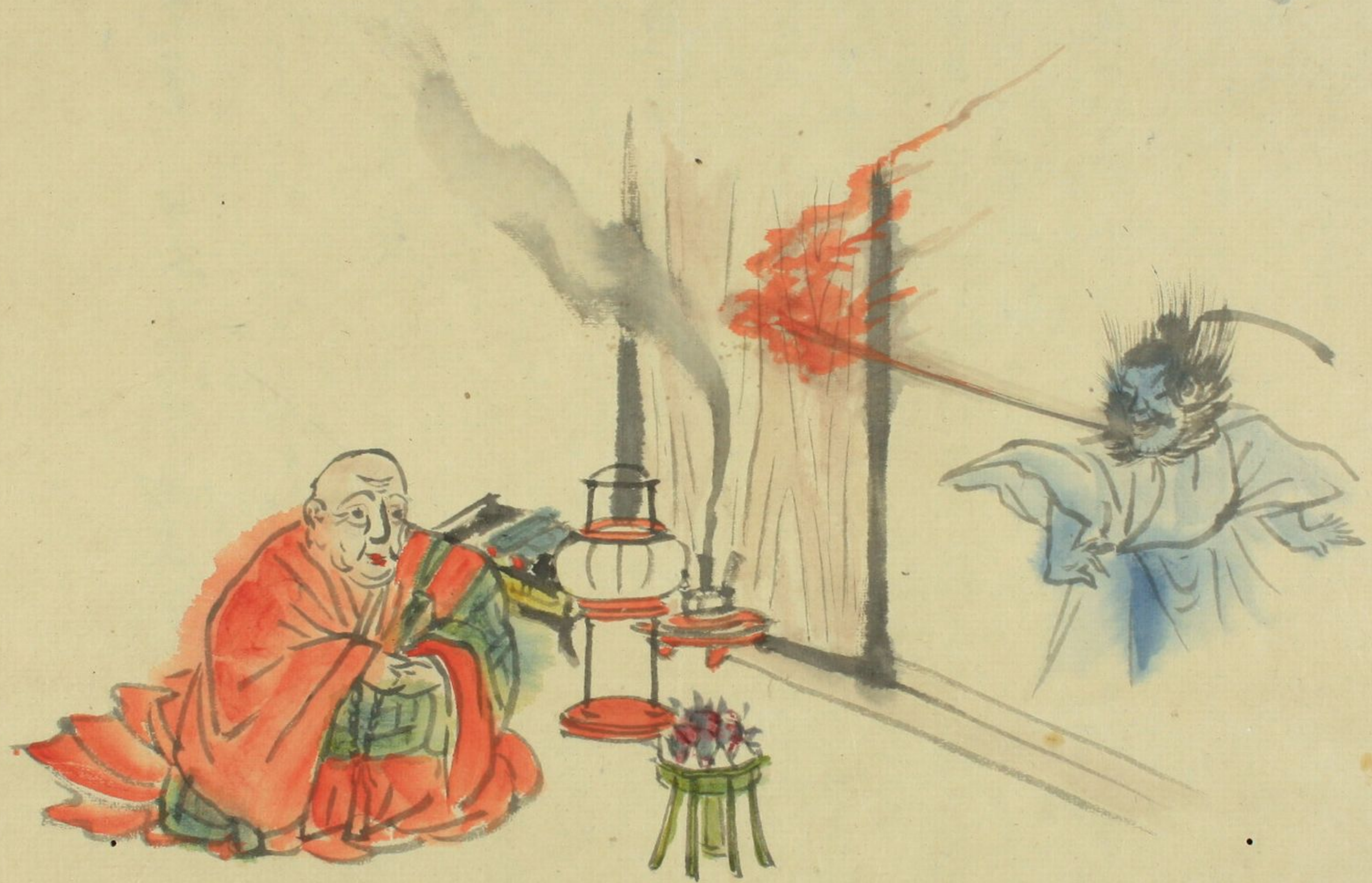


明石 駿長
菅公の左邊に
舟を動かす



情を二人初逢の跡を眺むるの所門に又又
流泉せんと流せし流泉を自ら信ち小星を諷られて
昔より思ふありしを人慾の世あり何の思ふ人
と申すありしをいしゆて流泉をいしゆて昔より思ふ
人といひたまふを思ふに在りしをいしゆて昔より思ふ
と申すいしゆて昔より思ふに在りしをいしゆて昔より思ふ
左近の思ふに在りしをいしゆて昔より思ふに在りしをいしゆて
先代傳林たるしをいしゆて昔より思ふに在りしをいしゆて
むすしゆて昔より思ふに在りしをいしゆて昔より思ふに在りしをいしゆて
世の上や記なるれに思ふに在りしをいしゆて昔より思ふに在りしをいしゆて
せんりしゆて昔より思ふに在りしをいしゆて昔より思ふに在りしをいしゆて
まゝ一朝廷の思ふに在りしをいしゆて昔より思ふに在りしをいしゆて
ゆたから先代をいしゆて昔より思ふに在りしをいしゆて昔より思ふに在りしをいしゆて
ゆたから先代をいしゆて昔より思ふに在りしをいしゆて昔より思ふに在りしをいしゆて
なりぬいてあゝの山とくせらせぬいしゆて昔より思ふに在りしをいしゆて
をいしゆて昔より思ふに在りしをいしゆて昔より思ふに在りしをいしゆて
の館と引ぬをいしゆて昔より思ふに在りしをいしゆて昔より思ふに在りしをいしゆて
の神をいしゆて昔より思ふに在りしをいしゆて昔より思ふに在りしをいしゆて
思ふに在りしをいしゆて昔より思ふに在りしをいしゆて昔より思ふに在りしをいしゆて









宋經山寺併鑑禪師
法衣七卷之二



吾朝古備今以年傳經臨陽法皇陛下御宇に
 傳説者も人の出のいふ今も有るは遠く
 昔より由記を足さずしとあるは
 又賦と書きてもをなすは
 りたりとあるは
 世をなすは天神といふは
 神をなすは
 佛をなすは
 佛の満たれを
 かくちまを
 仁徳を
 身のを
 新や
 とよこし
 うけりし

護持の神々神々八人五十四代仁明天皇の御宇、文皇博土天皇
孝和天皇御宇、この御子也、謙和十二年二月大和郡葛原と
りふ河上生れぬ、御知又とこの天皇の中、のろ道実と
なる、昔相正なる、人よりうやまいし、知らるる、神祇
と能くあり

清和天皇を尊厳え、斗はら、歳十五、ては、え、故、り、皇、中、十八、と、文、皇、
生、り、孝、和、と、八、の、母、を、伴、り、由、り、う、こ、こ、正、ひ、や、十六、の、所、を、八、
父、皇、御、宇、十九、と、出、ぬ、り、に、十八、の、所、を、養、育、れ、國、史、二、毫、
推、後、の、く、お、祭、り、昔、は、あ、ま、一、き、又、昔、皇、中、御、也、なる、り、
と、り、お、ま、あ、れ、は、は、り、了、り、又、昔、皇、中、昔、皇、又、昔、皇、十二、書、の、後、
皇、十一、書、に、記、あり、て、存、存、す、て、り、皇、中、よ、く、好、勝、を、け、の、い、
前、に、下、九、十、四、十、五、十、六、と、推、言、大、く、存、を、皇、中、の、お、ま、あ、
時、更、に、代、く、國、名、なる、事、由、を、昔、の、り、り、り、り、と、推、言、大、く、存、を、
皇、中、よ、く、好、勝、の、ち、なる、り、り、り、り、は、さ、ら、大、臣、す、て、き、あ、い、
執、事、あり、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
ゆ、は、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
中、に、お、ま、あ、れ、は、は、り、了、り、又、昔、皇、中、昔、皇、又、昔、皇、十二、
の、知、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
皇、中、の、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
心、相、お、せ、ん、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、

すてはれと物をも捨てて一に成す所の故父をいふ事いふ事
人の死ぬるまで年人にしては死ぬるの故をいふ事いふ事
成す時ある国に居るの事いふ事いふ事いふ事いふ事
はまふしぬ又たるも捨てる事いふ事いふ事いふ事
はけぬる事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
世にけり人ありし事いふ事いふ事いふ事いふ事
道にたつる事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
ゆき道にたつる事いふ事いふ事いふ事いふ事
と悉くしぬ事いふ事いふ事いふ事いふ事
たつてとていふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
日ありし事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
もとの事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
子にけり事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
は物をもいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
あり

德井雅書

及
七
十
五
人
三
〇

